

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000365		
法人名	有限会社 ウイング		
事業所名	グループホーム つばさ今町 さつきユニット		
所在地	愛知県豊田市今町6丁目38-1		
自己評価作成日	平成28年12月 9日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=2393000365-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、地域の行事(盆踊り参加)や近隣の施設行事(夏祭り)などに参加したり、地域自治会、地域包括を交えて2ヶ月に一回、会議を開催し交流を図っている。
 2、利用者様とその家族の思いに寄り添った支援を行うケアプランを作り信頼関係のある介護を行っている。
 3、管理栄養士によるバランスのとれた食事の提供をしており、利用者様に喜ばれている。
 4、28年4月オープンをしており、建物は新しく、また、将来の認知症利用者様の重度化を見据えたフロア作りになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8ヶ月目を迎え、理念通り利用者が「いきいきわくわく」と暮らせるホーム作りに取り組んでいる。運営推進会議メンバーの協力の下、地域にも徐々にホームの存在は認知されつつあり、今後さらに地域交流を深めていきたいと考えている。
 家族もホーム運営に協力的で、ホームの行事には多数の参加があり、利用者が希望する外出や外食を支援している。利用者は生活に慣れ、やりがいを見つけて落ち着いた生活が定着してきた。慣れる事や健康管理を中心とした介護計画も、徐々に利用者の意向を反映した思いの叶う計画に切り替えていく方針である。外出やレクリエーションも個別対応を目指している。管理者は職員教育の重要性を感じており、日常のケアの中でリーダーを中心に現場での指導を強化していく方針である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「いきいきわくわく」を社員全員と共有し、地域の方々に還元出来るように地域交流を今後増やす予定である。	月1回のユニット会議で、必ず理念を唱和して浸透を図っている。利用者や職員だけでなく、家族や地域の人々とも「いきいきわくわく」としていただけるよう、各者と協力関係が深められるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りやお祭りに参加させてもらいながら、交流を図っている。	開設1年未満のホームであり、地域行事に参加しながら少しずつ地域に馴染むことを目標にしている。散歩時の挨拶、近所からの野菜の差し入れ等、日常の中で顔を合わせる機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と連携して「認知症サポーター養成講座」などを開催する計画を立てています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の運営推進会議で毎回テーマを決め、地域の方々に現状報告や今後のサービス向上に活かす意見を頂いている。	運営推進会議には、自治会長や民生委員、老人会代表等の地域住民、地域包括支援センター職員が会議に参加している。地域の情報は会議内の話題から収集し、利用者の暮らしに活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括との連携を図り、運営推進会議にも出席していただいている。社協包括より入居者様のご紹介あり。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、イベントや行政の情報を提供している。今後、認知症サポーター養成講座や徘徊模擬訓練に参加する計画があり、更に連携が深められるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症実践者社内研修を事業所内にて行い、周知徹底を図るとともに、施設玄関の施錠も夜間以外はしないこととなっている。	利用者が不穏になった時は声をかけ、チームケアで対応している。研修だけでなく管理者やリーダーは日常のケアの中でその都度指導し、玄関先に設置された「つばさ神社」は、帰宅願望のある利用者の気持ちを落ち着かせる役目を果たしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	実践者社内研修にて全職員に周知させており、発見時には報告を徹底させる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者社内研修にて全職員、学習済みであり、ご家族や見学者に対し必要と思われる時は説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様や家族の不安、困っていることをお伺いした上で説明を行っており、理解や納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市役所からの監査の結果を運営推進会議内で発表したりしており、外部評価後の意見も発表、閲覧していくつもりである。	家族の訪問は頻回で、その都度家族意見を聞き取るよう努めている。開設して初めてのクリスマス会にはほとんどの家族が参加し、家族交流の機会となった。今後も、様々な家族参加の行事の計画がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニット会議にて職員の意見を聞いたり、年二回のヒヤリング(個人面談)を行い、今後の運営に反映させている。	月1回勉強会やカンファレンスを兼ねたユニット会議を開催しており、パート職員も含めた全員参加を原則としている。会議前に職員が議題を提出しており、管理者に意見や提案する機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ロッカールームの拡重や昼食時に相談室(建物本来より離れている)にて休憩が十分に取れるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人毎に年間教育スケジュールを立て、外部研修や同業者と共に介護術競技大会などを行い、技能向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者参加の介護術競技会第2回目を開催済み。DSホール(同つばさ下林にて)を日曜日限定にして、初任者研修、実務者研修を行い、同業者への参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時など、利用者様と面会をし、不安なこと困っていることなどをお聞きして安心していただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みの段階で不安な事、困っている事を十分に聞き、説明を行っている。入所後も、聞いてもらいたいことなどをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族を含めたアセスメントを行い、グループホーム入所だけを優先せず、必要な介護を判断し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がやりたい事出来る事を重視し積極的に行える環境づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、家族の立場を十分に考えながら面会時の対応を行ったり、日頃の本人の生活状態をお伝えしたりして、絆づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、お住いのご近所の方が訪問されたり、前施設にてご一緒だった方などが来所されている。	ひ孫の七五三の晴れ姿を利用者にお披露目するため、孫家族が来訪した。近隣の友人が訪ねて来たり、家族支援で馴染みの場所へ出かけたりしている。編み物や人形作り等、趣味の継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクレーションなどを通して孤独にならないよう明るく笑いのある状況を築けるよう職員一同努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設に行かれてもご家族から相談があれば、お受けして相談や援助が行える体制作りが来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し希望を聞き、アセスメントを行い、一人ひとりにあった生活を考えより良い生活ができるように、ご本人の気持ちに寄り添ったケアを行っている。	声掛けを大切にしており、利用者の話をよく聴いて思いを汲み取るよう努めている。掴んだ情報は申し送り時に口頭で伝えたり、申し送りノートに記入したりして職員間で共有するよう取り組んでいる。	聞き取った利用者の希望や思いを確実に共有し、介護計画に反映して実現させるための仕組み作りを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント方式を活用し、本人や家族より得た情報を集め、月一回のカンファレンスにて職員と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、身体の状態を把握するため前勤務職員から申し送りなどを伝えてもらい、その本人にあった対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の変化に対して医師、看護師に相談をし、ケアプラン作成時はご本人の意向を聞き、また、ケアプラン説明時にはご家族の希望等をお聞きしている。	毎月カンファレンスを開催し、3か月を目安にモニタリングを行って計画を見直している。開設間もないため利用者の入居期間は短く、生活に慣れる事と体調管理センターの介護計画を作成して支援している。	家族意見を的確に介護計画に反映するため、チームケアの一員として家族も参加したサービス担当者会議の開催を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートや介護日誌、ケース記録などを活用して情報を共有、見直ししながらより良い介護を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況などにできるだけ柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区の盆踊りやお祭りに参加し地域の方々との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診があり、24時間のオンコール対応にて緊急時の指示も頂いており、適切な医療を受けられる状態である。	月4回訪問看護師が健康管理を行い、月2回ホーム協力医が往診している。協力医は24時間の対応があり、緊急時も協力医を通じて総合病院を受診できる。専門科の受診は、原則家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護による、日常生活の細かいチェックを受け、かかりつけ医との連携により早急な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、病棟看護師に介護サマリを伝えて、ご家族了解のうえ、病院側の入院経過報告などに立ち会ったりして情報交換を図り、退院時には医療連携室と連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に話をしており、私どもの施設にて終末期を迎えたいとのご家族からの希望があった時、「重度化の指針」を参考に本人、家族、担当医、看護師、介護員とで十分な話し合いを行うように義務づけられている。	利用者や家族の意思を尊重し、ホームとしてできるところまで真摯に対応している。入居時に、自立した共同生活が困難となった時点で医師や看護師と相談し、利用者にとって適切な移行先を探す方針であることを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は「救命講習Ⅰ」を受講しており、AED講習をマスターしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練が今年1回しか行われいないが運営推進会議にて地域協力の話し合いを行っている。来年は年2回(夜間想定1回)訓練実施する予定である。	ホームで避難訓練を実施し、地域からは防災訓練やAEDの訓練等の誘いを受けている。それらには、今後参加していく方針である。備蓄は不十分と考えており、今後計画的に充足させていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意見、自尊心を尊重し、優しい声かけにて本人の言葉を否定しないようにたいおうしている。	職員は人生の先輩である利用者に対し、丁寧な言葉使いで優しく接している。「自分の家族だったら」と置き換えることで適切な対応ができるよう努め、様子や表情に気配りして傾聴するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との信頼関係を築き、ご本人の希望に添えるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であることを念頭に置き、その人らしい生活ができるように働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の希望を聞き、その人らしい身だしなみができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや食器洗いなど職員と一緒に出来ることをやっていただき、食事前の合唱などは自発的に利用者様からやって頂いている。	昼食は法人の厨房で調理した食事をホームで盛り付けている。朝食・夕食はホームで調理し、利用者ができる事を手伝っている。おやつレクでは一緒におやつを作り、希望のメニューは外食で実現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立により、バランスよい食事を提供している。水分量はケース記録に記入することで管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけを行っており、自立されていない利用者様については、介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけにて、できるだけトイレ便座にて排泄できるように支援をしている。	排泄の自立度は高く、見守り中心の支援である。自立しているからと放置せず、排泄記録をとって異常がないかチェックしている。時間や様子で声かけし、失敗の無いよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、軽い運動やマッサージを行ったりしている。また症状が重い利用者様については、主治医と相談の後、薬を処方して頂くこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に午前中の中の入浴が多いが、利用者様の希望に沿った入浴時間にもするもあり、出来る限り利用者様の希望に沿った支援を行うようにしている。	「できる事は自分で」の方針の下、見守りを中心に最低でも週2日入浴できるよう支援している。基本的には午前中の中の入浴であるが、利用者の希望に沿って夕食後の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息されたい時には個室にて休んでいただき、30分～60分にて声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋はいつでも確認ができ、医師より薬の変更があれば服薬後の変化を伝える。薬剤師による薬剤管理指導も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事計画に基づき、季節を感じていただく外出支援を行い、その他に個々の楽しみを利用者様から聞き、希望する事をできる限り支援できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、お買い物など、利用者様の要望に対して支援を行い、ご家族からの外食、外泊など要望もあり、協力して頂いている。	日常的な外出として、散歩時のコンビニエンスストアでの買い物、ホームの広い駐車場での外気浴がある。夏祭りや盆踊り等の地域行事に参加したり、ドライブで紅葉狩りに出かけている。家族の協力で外食や買い物に出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金(おこずかい 六千円)を買い物や飲食をした際、職員管理のもと、ご自分で支払うなどをしていただく支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書いたり、電話をしたり、受けたりして外部との交流をたのしまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁面の飾りを作成したり、朝、昼、夜の用途に合わせた照明の灯りを変えたりして心地良い空間を工夫している。	二つのユニットのフロアはフラットに廊下で繋がっており、利用者が自由に行き来している。リビングには利用者の顔写真を貼ったうちわや共同で作った作品等が飾られており、会話の弾む賑やかな雰囲気の中で多くの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて独りになれたりもしますが、和室にて皆さんの声や気配を感じながら過ごすこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はできるだけなじみの家具などを持ち込んでいただき、違和感をあまり感じないように工夫している。	自宅から持ち込む家具類は比較的少なく、入居時に家族が揃えた機能的な家具や日用品等が置かれている。そのため居室は広々と感じられ、利用者は職員と一緒に隅々まで掃除をして清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、職員手作りのパッチワークにて名前を作り、トイレやお風呂などもわかりやすく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000365		
法人名	有限会社 ウイング		
事業所名	グループホーム つばさ今町 花水木ユニット		
所在地	愛知県豊田市今町6丁目38-1		
自己評価作成日	平成28年12月11日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000365-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、地域の行事(盆踊り参加)や近隣の施設行事(夏祭り)などに参加したり、地域自治会、地域包括を交えて2ヶ月に一回、会議を開催し交流を図っている。</p> <p>2、利用者様とその家族の思いに寄り添った支援を行うケアプランを作り信頼関係のある介護を行っている。</p> <p>3、管理栄養士によるバランスのとれた食事の提供をしており、利用者様に喜ばれている。</p> <p>4、28年4月オープンをしており、建物は新しく、また、将来の認知症利用者様の重度化を見据えたフロア作りになっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「いきいきわくわく」を社員全員と共有し、地域の方々に還元出来るように地域交流を今後増やす予定である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りやお祭りに参加させてもらいながら、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括と連携して「認知症サポーター養成講座」などを開催する計画を立てています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の運営推進会議で毎回テーマを決め、地域の方々に現状報告や今後のサービス向上に活かす意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括との連携を図り、運営推進会議にも出席していただいている。社協包括より入居様のご紹介あり。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症実践者社内研修を事業所内にて行い、周知徹底を図るとともに、施設玄関の施錠も夜間以外はしないこととなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	実践者社内研修にて全職員に周知させており、発見時には報告を徹底させる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者社内研修にて全職員、学習済みであり、ご家族や見学者に対し必要と思われる時は説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様や家族の不安、困っていることをお伺いした上で説明を行っており、理解や納得をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市役所からの監査の結果を運営推進会議内で発表したりしており、外部評価後の意見も発表、閲覧していくつもりである。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニット会議にて職員の意見を聞いたり、年二回のヒヤリング(個人面談)を行い、今後の運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ロッカールームの拡重や昼食時に相談室(建物本来より離れている)にて休憩が十分に取れるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人毎に年間教育スケジュールを立て、外部研修や同業者と共に介護術競技大会などを行い、技能向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者参加の介護術競技会第2回目を開催済み。DSホール(同つばさ下林にて)を日曜日限定にして、初任者研修、実務者研修を行い、同業者への参加を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時など、利用者様と面会をし不安なこと困っていることなどをお聞きして安心していただけるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みの段階で不安な事、困っている事を十分に聞き、説明を行っている。入所後も、聞いてもらいたいことなどをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族を含めたアセスメントを行い、グループホーム入所だけを優先せず、必要な介護を判断し支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がやりたい事出来る事を重視し積極的に出来る環境づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、家族の立場を十分に考えながら面会時の対応を行ったり、日頃の本人の生活状態をお伝えしたりして、絆づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お家のご近所の方が訪問されたり、前施設にて一緒だった方などが来所されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどをとおして孤独にならないよう明るく笑いのある状況を築けるよう職員一同努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設に行かれてもご家族から相談があれば、お受けして相談や援助が行える体制作りが来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し希望を聞き、アセスメントを行い、一人ひとりにあった生活を考えより良い生活ができるように、ご本人の気持ちに寄り添ったケアを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント方式を活用し、本人や家族より得た情報を集め、月一回のカンファレンスにて職員と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、身体の状態を把握するため前勤務職員から申し送りなどを伝えてもらい、その本人にあった対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の変化に対して医師、看護師に相談をし、ケアプラン作成時はご本人の意向を聞き、また、ケアプラン説明時にはご家族の希望等をお聞きしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートや介護日誌、ケース記録などを活用して情報を共有、見直ししながらより良い介護を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況などにできるだけ柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治区の盆踊りやお祭りに参加し地域の方々との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診があり、24時間のオンコール対応にて緊急時の指示も頂いており、適切な医療を受けられる状態である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護による、日常生活の細かいチェックを受け、かかりつけ医との連携により早急な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、病棟看護師に介護サマリを伝えて、ご家族了解のうえ、病院側の入院経過報告などに立ち会ったりして情報交換を図り、退院時には医療連携室と連携を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に話をしており、私どもの施設にて終末期を迎えたいとのご家族からの希望があった時、「重度化の指針」を参考に本人、家族、担当医、看護師、介護員とで十分な話し合いを行うように義務づけられている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は「救命講習Ⅰ」を受講しており、AED講習をマスターしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練が今年1回しか行われいないが運営推進会議にて地域協力の話し合いを行っている。来年は年2回(夜間想定1回)訓練実施する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の意見、自尊心を尊重し、優しい声かけにて本人の言葉を否定しないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との信頼関係を築き、ご本人の希望に添えるよう支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であることを念頭に置き、その人らしい生活ができるように働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の希望を聞き、その人らしい身だしなみができるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な料理を提供しており、料理の盛り付けや食器洗いなど職員と一緒に出来ることをやっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた献立により、バランスよい食事を提供している。水分量はケース記録に記入することで管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけを行っており、自立されていない利用者様については、介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけにて、できるだけトイレ便座にて排泄できるように支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、軽い運動やマッサージを行ったりしている。また症状が重い利用者様については、主治医と相談の後、薬を処方して頂くこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に午前中の中の入浴が多いが、利用者様の希望に沿った入浴時間にすることもあり、出来る限り利用者様の希望に沿った支援を行うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息されたい時には個室にて休んでいただき、30分～60分にて声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋はいつでも確認ができ、医師より薬の変更があれば服薬後の変化を伝える。薬剤師による薬剤管理指導も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間行事計画に基づき、季節を感じていただく外出支援を行い、その他に個々の楽しみを利用者様から聞き、希望する事をできる限り支援できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、お買い物など、利用者様の要望に対して支援を行い、ご家族からの外食、外泊など要望もあり、協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金(おこずかい 六千円)を買い物や飲食をした際、職員管理のもと、ご自分で支払うなどをしていただく支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書いたり、電話をしたり、受けたりして外部との交流をたのしまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁面の飾りを作成したり、南向きフロア一窓から季節ごとの日光や風景が変わることで心地良い空間が生まれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて独りになれたりもしますが、和室にて皆さんの声や気配を感じながら過ごすされたり、そこで昼寝をされる利用者様もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はできるだけなじみの家具などを持ち込んでいただき、違和感をあまり感じないように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、職員手作りのパッチワークにて名前を作り、トイレやお風呂などもわかりやすく表示している。		